慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	松浦, 良充(Matsuura, Yoshimitsu)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2022
Jtitle	日本語と日本語教育 No.50 (2022. 3) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	刊行50周年 特集 : 修了生の現在
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20220300-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』50：1–2（2022.3）

巻頭言

日本語・日本文化教育センター所長
松浦良充

慶應義塾大学日本語・日本文化教育センターの紀要『日本語と日本語教育』が、第 50 号の刊行を迎えた。これまでの長い歳月、慶應義塾の日本語教育に貢献されてきた多くの教職員、その教えを受け日本語の学習・習得に励まれた諸君、また日本語・日本文化教育センターの運営を支えてくださったすべての方々とともに、この業績を讃えたい。

本誌は通常、本センターの専任教員を中心として、慶應義塾の日本語・日本文化教育に従事されている研究者の研究成果の公表の場となっている。記念号としての本号は、通常号とは少し趣向を変えて、本塾大学院文学研究科・日本語教育学分野の修了者を含む、本センターの教育プログラムの修了生からの寄稿を中心とした構成となっている。研究論文とは異なる形で、本センターの学術活動の発展がここに示されている。慶應義塾の日本語・日本文化教育の成果が、日本を超えて世界に拡張していることがわかる。

とは言っても実は、筆者はまだ当センターの所長に就任して、数ヶ月しかたっていない。これまでは、文学部長としてセンターの運営委員会に出席させていただいていたが、役務をきちんと担う構成員とは言えなかったことを反省している。縁あって所長の任に就くことになり、運営委員会の進行を務め、日程の許す限りではあるが学務委員会に出席することで、センターの活動について学び理解し、教員のみなさんのお考えに接する途上にいる。

これまで本センターの所長は、わずかな例外を除いて、国際センターの所長が兼任してきた。本誌にもご寄稿いただいている大串尚代・国際センター所長は、本センターの前所長である。大串さんの寄稿にも明らかなように、慶應義塾の日本語教育は、国際センターとの密接なつながりのもとで業績を重ね、今日に至っている。それは、本センターが国際センターから組織的に独立した後も続いてきた。

強い絆のもとでの連携は不可欠ではあるが、国際センターと本センターの役割や組織的な位置づけは必ずしも完全に一致するわけではない。だからこその組織的独立であったはずである。少なからぬ数の専任教員を擁する全塾的組織として、本センターのミッションを再確認し、塾内の教育・研究活動のなかでの使命や機能をより明確に再構成するためにも、国際センターからの「親離れ」が必要ではないか。本センターの担当理事を仰せつかって、その方向に進むことを決意し、所長に就任させていただいた。折しもコロナ禍のなかで、日本語・日本文化教育に限らず、大学教育全体で、新しい教育のあり方を模索しなければならない時機にもある。

本号は、こうした本センターの新しい出発を駆動するためにも、重要な意味をもつ。単に刊行を重ねた記念にとどまるのではなく、本センターの活動の新しいモデルを構築するための第 50 号として位置づけたい。